



菅波 茂

3.19

春眼を覚えず。夢を見た。「人道援助の世界都市」が岡山に出現した夢である。それは世界に発信する岡山の知的文化のシンボルタワーだった。場所は旧国鉄岡山操車場跡地。シンボルタワーは次の複合施設群だった。

- ①AMDA国際大学②国連ボランティア訓練センター③国際宗教文化センター④国際福祉研究センター⑤世界多言語訓練センター⑥情報通信技術センター

シンボルタワーは県都のシンボルであるとともに、「西のジュネーブ、東の岡山」に代表される人道援助世界都市の本部機構でもあった。世界から関係者や観光客の岡山詣でが続いていた。

AMDA国際大学は岡山の既存

大学が設置した国際貢献学部と連携し、人道援助世界都市大学群として世界に発信していた。受験生にもあこがれの的だった。公開・生涯講座を実施するオープン大学

制度により、大学は休日はもちろん夜間も開放されて不夜城の感があつた。世界多言語訓練センターでの言語訓練機能には留学生の活用が見られた。文部省

## 春の夢

ボランティア教育のメッカとして国連ボランティア訓練センターと連携したAMDA国際ボランティア訓練センターのアジア及びアフリカへの展開は実践教育の最高峰と評価されていた。林原「恐竜博物館」との連携は不思議な教育効果を更に高めていた。ミニ国連としての国際宗教文化センターには世界の若き宗教者が集い、「布教なき社会貢献」が実施され、宗教戦争という言葉は死語になっていた。情報通

信技術センターは県情報ハイウェイ構想と連携し、岡山から人道援助活動の映像及び制作番組を全国に提供し、CNN日本版と言われている。

人道援助世界都市複合施設群は超高齢社会に不可欠な交通の利便性を前提としていた。人口交流拠点のJR岡山駅を中心とした街づくりのシンボルでもあった。同時に環境問題、空洞化など岡山市が抱える諸問題が包括的に解決されていた。鉄道による人道援助世界都市複合施設群、チボリ公園連携が岡山市・倉敷市の求心力を高めていたのには驚いた。

まだまだ夢のような状況が展開していたが、途中で妻に似たウグイスの鳴き声で夢から覚めた。これ以上報告できないのが残念である。

(アジア医師連絡協議会会長・題字は筆者)

言葉は死語になっていた。情報通